# 国際通貨体制

小野朝男著

ダイヤモンド社

## 著者略歴


小野朝男（おの あさお）

1923年岐阜県に生まれる。
1947年九州帝国大学法文学部経済科卒業。
1948年九州大学経済学部助手。
1952年和歌山大学経済学部講師。
1954年同助教授。
1962年同教授，現在に至る。
経済学博士。国際金融論専攻。


著書および訳書
『外国為替』春秋社，1957年。
『イギリス信用体系史論』東洋経済新報社，1959年。
『国際通貨制度』ダイヤモンド社，1963年。
『国際金融論入門』（西村閑也氏との共編），有斐閣双書，1975年。
P．アインチッヒ『外国為替の歴史』（村岡俊三氏との共訳）ダイヤモンド社，1965年。

現住所——大阪府和泉市弥生町2丁目17-10



国際通貨体制

昭和51年12月9日　初版発行
昭和55年12月19日　2版発行

著者　小野朝男



© 1976 Asao Ono



発行所　ダイヤモンド社
郵便番号　100
東京都千代田区霞が関 1-4-2
編集 電話 東京 (504) 6403
販売 電話 東京 (504) 6517
振替口座 東京 9-25976

落丁・乱丁本はお取替えいたします。
亨有堂印刷・高陽堂製本
3033-286010-4405

# はしがき

まことに「光陰は矢の如し」である。私が前著『国際通貨制度』（ダイヤモンド社，1963年）を公刊したのは，つい昨日のことに思えるのに，あれからすでに13年の歳月が流れようとしている。当時有名なR.トリフィンの『金とドルの危機』（*Gold and the Dollar Crisis*, 1960）が発刊され，いわゆるドル危機の警鐘が鳴らされて間もないころであった。

思えば，そのころまだこの方面の研究は，わが国はもとより，海外においても数は少なかった。「国際金融」(International Finance) なる研究分野も，必ずしも十分に確立されているとはいえなかった。それが，いまではどうであろうか。この研究分野の確立はもちろんのこと，この種の研究が内外ともに雨後の筍のように続出し，類書も星の数ほどあるといっても過言ではない。しかし，それにもかかわらず，ドル危機に始まった国際通貨危機の実態は，必ずしも改善されたとはいえない。というより，先般のキングストン体制の成立にみられるように，戦後の国際通貨体制を支えたＩＭＦ体制は，事実上完全に崩壊し，いまや新たな時代を迎えた，といってよいであろう。

もっとも，これをもって，今日管理されたフロートとか修正されたフロートの時代の到来と称して歓迎するむきもなくはない。けれども，それは，かつて1930年代初期にわれわれが嘗めた苦い経験を無視するものといえよう。あの1932年のロンドンの「世界通貨経済会議」の失敗から，1936年の「三国通貨協定」の成立にかけて，われわれが経験した苦渋と混乱の時代の悪夢を永遠に忘れることはできない。よく「歴史は繰り返す」といわれる。今日の事態が，1930年代のそれに，あまりにも相似していることに驚かざるをえない。それだけに，警世家として有名な前米連邦準備制度理事会議長，W. M. マーチンならずとも，「金融史は繰り返すか？」と警告したくなるのが，このごろの風潮である。

このような中にあって，前著の発刊から13年を経たいま，私は『国際通貨体制』と題した本書を，あらためて世に問うのである。それは，それなりの理由があってのことである。近年のこの風潮とけっして無縁ではない，といえよう。本書を貫く基本的な姿勢が，このごろの風潮に対する批判であり，警告の形を失っていないゆえんも，またここにある。

ところで，このような基本的な立場から，本書で採り上げたことは，まず第1に，IMF体制成立の背景としての1930年代の経験であり，IMF体制成立の経緯である。これらは，いずれも本書の主題の一つである「国際通貨体制の将来」を占うにあたって，必要不可欠な要件と判断したからにほかならない。事実，IMF体制の先駆者としての「三国通貨協定」の成立の経緯は，国際通貨体制の再建の方向を模索するにあたって，大いに参考になるであろう。

また，戦後の国際的な決済手段の短期融資機関として設立されたIMFが，いまや発展途上国の発言の増大もあって，国際的な資本の融資機関の性格をも，もたされようとしているときに，そもそもホワイト案の原型の中に，すでにこの構想が存在していたことは，注目に値する。それだけに，この機会に，原点に立ち戻っての再検討の必要を痛感せざるをえなかった，といえよう。

次に本書で採り上げたことは，IMF体制の崩壊過程である。そして，これらを通じて，今日においても国際間にあって相対的に各国が独立し，独自の国家主権を有する限り，各国とりわけ帝国主義諸国間の利害の対立・相剋が激化するのは不可避であることを指摘したのである。今日ともすれば，ECの通貨統合，IMFの金管理政策の放棄などの事実に目を奪われ，いわゆる金廃貨論が脚光を浴びつつある。のみならず，また，金廃貨論の立場はとらなくとも，国際通貨体制の再建の方向として，国際的な金管理センターの設置が提起されている。しかし，これらは，いずれも，明らかにかつてのB.И.レーニンによって徹底的に批判されたK.カウツキーの「超帝国主義論」を彷彿させるものがある。それだけに，この機会にいま一度B.И.レーニンの「カウツキー主義」に対する批判を再現し，その批判の意義を再評価してみたかったのである。

同様の趣旨から，最後に，いぜんとして今日の国際間にあっては，各国が管理通貨制度下にあるといっても，信用恐慌の可能性はもとより，必然性さらに

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

は現実性さえも失っていないことを確認したかったのである。そして，その例として，今日「国際金融市場の妖怪」といわれるユーロ・ダラー市場の存在を採り上げ，その本性の解明を試みてみたのである。

本書の執筆にあたって，私の脳裏を離れなかったことは，だいたい以上のことである。だから，これらが本書の執筆の動機といえば，いえなくもないであろう。しかし，実際執筆にあたって感じたことは，意欲があっても，力の足らないことである。したがって，本書がはたして所期の目的を達成しているかどうかは，はなはだ疑問といわなければならない。大方の批判をまつほかない。ここに，あらためて真理探求の道の険しさを，ひとしお感じているのが，いまの私の心境である，といえよう。

それにつけても，本書の発刊にあたっては，日ごろから多くの方々のお世話になった。母校九州大学ならびに和歌山大学の恩師，先輩，同僚から受けた恩義は，まことにはかりしれないものがある。とりわけ，九州大学以来の恩師であり，古稀を過ぎられ，なお矍鑠たる岡橋保先生を中心にした同門の諸兄による研究会での切磋琢磨が，大いに預って力のあったことを感謝しないではいられない。

なお資料の収集にあたっては，貴重な文献を貸与頂いた武蔵大学の波多野真教授をはじめ，本学の渡辺昭学兄さらには本学付属図書館員の方々，なかでも谷口宏之，武田光夫両係長のご協力を得た。このご好意に厚く御礼申し上げたい。また，文献目録の作成にあたって，多忙な勤務を経たあとの貴重な時間を割いてご尽力頂いた出口恵津子嬢にも，あわせて感謝の意を表したい。

本書を構成する個々の研究の一部は，昭和48年度および50年度の文部省科学研究費の援助を受けたものである。また，本書の第1編第2章第3節Ⅰ「IMF体制下の国際通貨制度」は『金融経済』140号（1973年6月25日）に，補論の第4章「国際信用恐慌」は『経済評論』24巻7号（1975年7月1日）に，それぞれ一部掲載されたものである。修正，補筆のうえ，ここに再録することをお許し頂いた両編集部のご温情に，心から御礼申し上げたい。

最後に，なにかと出版事情の困難な折，本書の出版を快くお引受け頂いたダイヤモンド社のご芳情，とりわけその間にあっていろいろお骨折りを賜わった

出版局の近正嗣氏，校正および索引の作成にご協力頂いた出版局の方々のご好意に感謝の誠を捧げたい。これらの方々のご支援とご協力がなければ，本書はこのような形で陽の目をみることができなかったことを付記したい。

1976年晩秋　　和歌山にて

小　野　朝　男

# 凡　　例

Ⅰ　引用文について，邦訳のあるものは，できる限りそれを明示したが，訳文は必ずしもそれによらなかった。したがって，適当に当用漢字，現代かなづかいに変更したものもある。ただし，原典が利用できず，翻訳書のみによった場合には，原文のまま引用することにした。

Ⅱ　機関名，表題名などが長い場合には，適当に略式表示を利用した。例示すれば，次のとおりである。

| | |
|---|---|
| Annual Report, 19— | ; Annual Report of the Executive for the Fiscal Year Ended April 30, 19— |
| —— Annual Report | ; —— Annual Report, 1 st. April 19——31 st. March 19— |
| BIS | ; Bank for International Settlements（国際決済銀行） |
| EC | ; European Community（ヨーロッパ共同体） |
| ECSC | ; European Coal and Steel Community（欧州石炭鉄鋼共同体） |
| EEC | ; European Economic Community（ヨーロッパ経済共同体） |
| EFTA | ; European Free Trade Association（欧州自由貿易連合） |
| EMA | ; European Monetary Agreement（欧州通貨協定） |
| EMCF | ; European Monetary Cooperation Fund（欧州通貨協力基金） |
| EPU | ; European Payments Union（欧州支払同盟） |
| ERDF | ; European Regional Development Fund（欧州地域開発基金） |
| EURATOM | ; European Atomic Community（ヨーロッパ原子力共同体） |
| FEOGA | ; Fonds Européen d'Orientation et de Guarantie Agricole（欧州農業指導保証基金） |
| FRB | ; Federal Reserve Bulletin |
| GAB | ; General Arrangements to Borrow（借入れに関する一般協定） |

| | |
|---|---|
| GATT | ; General Agreement on Tariffs and Trade（関税および貿易に関する一般協定） |
| Group of Ten | ; The countries associated in the GAB（一般的借入参加10ヵ国） |
| IBRD | ; International Bank for Reconstruction and Development（国際復興開発銀行；世界銀行） |
| IFNS | ; International Financial News Survey |
| IFS | ; International Financial Statistics |
| ILO | ; International Labor Organization（国際労働機構） |
| IMF | ; International Monetary Fund（国際通貨基金） |
| LDC | ; Less Developed Countries（低開発国） |
| LN | ; League of Nations（国際連盟） |
| MGTC | ; Morgan Guarantee Trust Company |
| OECD | ; Organization for Economic Cooperation and Development（経済協力開発機構） |
| OEEC | ; Organization for European Economic Cooperation（欧州経済協力機構） |
| SDR | ; Special Drawing Rights（特別引出権） |
| UC | ; unité de commte（計算単位） |
| UN | ; United Nations（国際連合） |
| UNCTAD | ; United Nations Conference on Trade and Development（国連貿易開発会議） |
| UNRRA | ; United Nations Relief and Rehabilitation Administration（国連救済復興会議） |

Ⅲ　本文のみならず，引用文においても，アメリカおよびイギリスの国名に限り，米国および英国の漢字名の表示に統一した。

# 目　　次

はしがき

## 第1編　IMF体制の本質

第1章　IMF体制成立の背景 …… 3

第1節　世界恐慌と通貨危機 …… 3

Ⅰ　世界恐慌と管理通貨制度の生誕…… 3

Ⅱ　管理通貨制度下の通貨不安…… 7

第2節　為替平衡操作と三国通貨協定…… 9

Ⅰ　為替平衡操作と英米2国間の角逐…… 9

Ⅱ　三国通貨協定成立の意義……16

第3節　為替管理と為替清算制 ……24

Ⅰ　為替管理制度の生誕……24

Ⅱ　為替管理の強化と為替清算制……28

第4節　通貨ブロックの形成と米国の通商戦略 ……33

Ⅰ　スターリング・ブロックの形成……33

Ⅱ　金ブロックの形成と崩壊……36

Ⅲ　マルク・ブロックの発展……39

Ⅳ　円ブロックの役割……42

Ⅴ　ブロック化の嵐の中での米国の通商戦略……44

第2章　IMF体制成立の意義 ……53

第1節　戦後世界経済の再建目標の確立……53

Ⅰ 大西洋憲章の発表——米英の対立——……53
Ⅱ 相互援助協定第7条をめぐる交渉……63
第2節 IMF体制の成立……75
Ⅰ IMF設立の経緯……75
(1) ホワイト案の源流(75) (2) ケインズ案の作成(81)
(3) ホワイト案とケインズ案の交換(85) (4) 修正されたホワイト案(90) (5) ケインズ案の発展(99) (6) ケインズ案とホワイト案の対立と調整——共同声明——(106)
(7) ブレトン・ウッズ協定の成立(114)
Ⅱ IMFの機構……119
(1) 設立の目的(119) (2) IMFの仕組(120)
第3節 IMF体制の実体……125
Ⅰ IMF体制下の国際通貨制度……125
(1) IMF体制と世界貨幣(125) (2) IMF体制と国際通貨制度(129) (3) 国際通貨としてのドルの地位(133)
Ⅱ 短期のドル融資機関としてのIMF……139
(1) IMF体制成立当時の世界経済(139) (2) 予想されるドル不足とIMF(142)

# 第2編 戦後世界経済の潮流とIMF体制

第1章 国際流動性とIMF体制……147
第1節 ドル不足とIMF体制……147
第2節 ドル不足緩和とIMF体制……152
第3節 ドル危機とIMF体制……157
第4節 ドル防衛と国際金融協力……161
第2章 IFM体制の崩壊……169

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

第1節　国際通貨不安の頻発 …… 169
Ⅰ　ポンド切下げと金プール協定の破棄…… 169
Ⅱ　フランの切下げとマルクの切上げ…… 173
Ⅲ　収まらぬ国際通貨不安…… 178
第2節　ニクソン声明とスミソニアン体制 …… 179
Ⅰ　ニクソン声明の発表…… 179
Ⅱ　スミソニアン体制の意義と限界…… 184
Ⅲ　スミソニアン体制の崩壊…… 185
Ⅳ　崩壊したIMF体制…… 190

# 第3編　国際通貨体制の将来

第1章　IMF体制変革の試み …… 197
第1節　IMFの改革論議とSDR…… 197
Ⅰ　IMFの改革論議と国際流動性 …… 197
Ⅱ　国際流動性の増強とSDR …… 203
Ⅲ　SDRの性格――意義と限界―― …… 207
第2節　IMFの改革論議と変動為替相場制…… 212
Ⅰ　IMFの改革論議と国際収支の調整 …… 212
Ⅱ　為替相場の弾力化の試み…… 216
Ⅲ　露呈された為替相場の弾力化の限界…… 221
第2章　国際通貨体制再建の方向…… 226
第1節　模索される国際通貨体制の再建…… 226
Ⅰ　迫られた国際通貨制度の根本的改革…… 226
Ⅱ　難航した国際通貨制度の改革論議…… 227
第2節　遠のいた国際通貨制度の根本的改革 …… 230
Ⅰ　戦後最大の危機に直面した世界経済…… 230

Ⅱ 見送られた国際通貨制度の根本的改革…… 235
第3節 当面の緊急措置の評価 …… 239
Ⅰ 具体化した緊急措置…… 239
Ⅱ オイル・ダラーの還流機構…… 241
Ⅲ 金問題の取扱い…… 245
Ⅳ キングストン体制の成立…… 249
(1) IMFの第6次増資(249) (2) IMF保有金の取扱い(250)
(3) 輸出変動補償制度の拡充(250) (4) クレジット・トランシュの拡充(250) (5) 為替相場制度に関する取扱い(251)
Ⅴ キングストン体制の意義…… 252
Ⅵ キングストン体制の将来…… 254
第4節 安定した国際通貨体制の再建…… 255
Ⅰ 指向される新制度の概要…… 255
Ⅱ 新制度の難点…… 258
Ⅲ 安定した国際通貨制度再建の道…… 260

## 補 論

第1章 超帝国主義論批判…… 271
第1節 K.カウツキーの「超帝国主義論」 …… 271
第2節 B.И.レーニンの『超帝国主義論』批判 …… 276
第3節 カウツキー主義の教訓 …… 280
第2章 ECの通貨統合 …… 287
第1節 ヨーロッパの経済統合 …… 287
Ⅰ EECの発足——EECとEFTA …… 287
Ⅱ EECの経済統合——関税同盟と農業共同市場——…… 289
Ⅲ 拡大されたEC…… 293

第2節　ECの通貨統合 …… 296
Ⅰ　ECの通貨同盟設立計画 …… 296
Ⅱ　域内変動幅縮小計画 …… 302
Ⅲ　欧州通貨協力基金（EMCF）と第2段階への移行 …… 309
(1)　欧州通貨協力基金（EMCF）の設立(309)　(2)　難航した欧州地域開発基金（ERDF）の発足(311)　(3)　新UCの採用(314)
第3章　ユーロ・ダラー市場と信用創造 …… 320
第1節　ユーロ・ダラー市場 …… 320
Ⅰ　ユーロ・ダラー市場の形成 …… 320
Ⅱ　ユーロ・ダラー市場形成の背景 …… 322
Ⅲ　ユーロ・ダラー市場の発展 …… 325
第2節　ユーロ・ダラー市場の信用創造 …… 329
Ⅰ　信用創造論をめぐる論争 …… 329
(1)　ベル＝フリードマンの信用創造論(329)　(2)　クロプストック＝リトルの信用創造批判論(332)
Ⅱ　ユーロ・ダラーの本性 …… 333
第4章　国際信用恐慌 …… 339
——信用恐慌の現代的形態について——
第1節　現行通貨体制と信用恐慌 …… 339
Ⅰ　通貨制度と信用恐慌 …… 339
(1)　信用恐慌の定義(339)　(2)　兌換制下の信用恐慌(340)
(3)　不換制下の信用恐慌(341)
Ⅱ　現行の通貨制度と国際通貨危機 …… 343
(1)　国際通貨危機と信用恐慌(343)　(2)　国際金融協力の理論的意義(344)
第2節　ユーロ市場と国際信用恐慌 …… 351

Ⅰ 表面化したユーロ市場の信用不安…… 351
(1) 為替差損によるユーロ銀行の経営危機(351) (2) ユーロ市場の金融逼迫(353) (3) ユーロ市場固有のアキレス腱(354)
Ⅱ ユーロ市場の信用不安の性格…… 358
第5章 金の将来——金管理政策のゆくえ—— …… 361
第1節 IMF体制と金 …… 361
Ⅰ IMF体制下の金の地位…… 361
Ⅱ IMF体制下の金管理政策…… 362
(1) 金のプレミアム販売(362) (2) 金生産者への補助金(369)
第2節 IMF体制の崩壊と金…… 374
Ⅰ ドル危機と金管理政策…… 374
(1) 金プール協定の成立の意義(374) (2) 金プール協定の破棄と金の二重価格制の採用(379)
Ⅱ IMF体制の崩壊と金管理政策の放棄…… 381
(1) ドルの金兌換停止の完成(381) (2) 金の公定価格の引上げと二重価格制の撤廃(383) (3) 金の公定価格の廃止(384)
Ⅲ 国際通貨改革と金——金廃貨論のゆくえ—— …… 386
(1) 金廃貨論(386) (2) 金廃貨論への抵抗(388)

# 付 録

国際金融史年表 …… 395
参考文献目録…… 410
事項索引 …… 431
人名索引 …… 451

# 統計目次

1—1表　3大債権国からの資本輸出額…… 3
1—2表　米国の商品別輸入額…… 4
1—3表　各国為替相場の推移……14
1—4表　世界各国の貿易における米国の地位……45
1—5表　世界貿易に占める各国の比重……46
1—6表　米国の互恵通商協定国……49
1—7表　世界貿易の推移と米国の貿易額の比較……51
1—8表　通商協定国と米国の貿易の推移……51
1—9表　英国の1938年—1944年における国民総生産額とその処分……140
1—10表　1939—1944年間の合衆国の国民総生産額とその処分……141
1—11表　主要国の鉱工業生産指数……142
1—12表　米国の国際収支……144
2—1表　国際的な金およびドルの取引（1946—1955年）……148
2—2表　地域別対外支払準備（金・外貨）の推移……148
2—3表　米国の国際収支尻とその決済……152
2—4表　金塊自由市場相場……153
2—5表　OEEC諸国の貿易自由化率……155
2—6表　IMF取引高（1950—1959年）……156
2—7表　米国の国際収支項目の推移……157
2—8表　合衆国の準備資産と対外短期債務……158
2—9表　世界の金準備の推移……159
2—10表　GAB：借入協定額……162
2—11表　世界の金供給とその用途……165
2—12表　フランス：国際収支……174
2—13表　西ドイツ：国際収支……176
2—14表　スミソニアン体制直後の各国平価表……182～3

2—15表　英国の国際収支……186
2—16表　基金加盟国の為替相場の実態……192
3—1表　ＯＥＣＤ諸国の消費者物価上昇率……231
3—2表　国際流動性の推移……231
3—3表　マネー・サプライ指数……231
3—4表　主要な国際収支項目の推移，1972—1974年……232
3—5表　主要国の公定歩合の推移……233
3—6表　世界各国の経済成長率，1960—1974年……234
3—7表　ロンドン金市場価格……254
4—1表　各種ＵＣの各通貨との交換比率……315
4—2表　新ＵＣの通貨バスケットの決定……317
4—3表　報告を提出したヨーロッパ諸銀行のドル建ておよびその他外貨建て対外ポジション……326～7
4—4表　ユーロ・カレンシー市場の推定規模……328
4—5表　銀行の経営危機の発生……352
4—6表　ユーロ市場の金利と合衆国金利……354
4—7表　ユーロ・カレンシーの貸出額……355
4—8表　ロンドン市場の金価格推移……376

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com